

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析及び活用について

学校名	伊勢原市立石田小学校
-----	------------

1 調査結果の分析及び考察

	特長	課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、受け手に説明する方法をおおむね理解している。 慣用句の意味をおおむね理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係を一致させて文を書くこと。 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと。 目的や意図に応じて、必要な内容を十分に満たして書くこと。 話し手の意図を捉えながら、自分の考えをまとめること。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 密度や角度についての知識は、おおむね身についている。 課題に対して、取り組もうとしている。(無回答率の全体的な低さ) 図形の構成要素や性質を基に考える力がついている児童が比較的多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗法と除法の意味をそれぞれに捉えること。 問題場面の条件を捉えること。 得た知識を活用して問題解決の道筋を考えること。 課題場面を適切に捉え、条件を整理して順序立てて考えること。 グラフの種類による読み取りと、そこから判断すること。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 生き物の観察やその結果の見方については、おおむね身についている。 流れる水の作用についての知識は、おおむね身についている。 物質に関する実験結果の分析考察をする力がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> より妥当な考えをつくり出すために実験結果を分析して考察すること。 考察した内容を適切に記述すること。 エネルギーに関する実験の構想をしたり、目的に合った実験道具を用意したりすること。
質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 先生が良いところを認めてくれると感じている児童が多い。 放課後、友だちと遊んでいる児童が多い。 ほとんどの児童が、学校の出来事について家の人と話をしている。 地域の大人と関わりをもっている児童が多い。 観察や実験を行うことが好きな児童がとて多い。 理科の解答を文章などで書く問題に対して、最後まで書こうと努力した児童が比較的多い。 調査問題に対してじっくり取り組もうとしている児童が比較的多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書を全くしない児童が比較的多いこと。 家庭での学習時間が比較的小さい(30分程度が多い)こと。 地域の活動に参加している児童が少ないこと。 算数の公式やきまりのわけをいつも理解しようとしている児童が少ないこと。 算数の問題の解き方や考え方が分かるようにいつもノートに書いている児童が少ないこと。 理科の授業で、自分の考えをいつも発表している児童が少ないこと。 話し合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思っている児童が比較的小さいこと。

2 ①授業の充実に向けた重点的な取組

<p>その授業で実現させたい内容(ねらい)を一人でも多くの児童に実現できるよう、一人一人の児童に対応したきめ細かな工夫や配慮をしていく。</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動における意見交換の際、話し手の意見を受けて自分の考えを述べる姿勢を持たせるように働きかける。 自分の意見を書く活動を授業の中に意図的に取り入れ、主語と述語の関係が明確になるよう短文で書かせるようにする。 単元の中により多くの文章を読む経験を増やすような取り組みを組み込んでいく。 <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の場面を適切に捉えられるように図や絵を利用するなどの工夫をする。 論理的な思考場面を意図的に授業の中に位置付け、自分で解決方法を見つけ記述する活動を増やす。 課題解決に向けて、考える道筋を順序立てて記述する学習活動を増やす。

2 ②家庭(地域)への発信内容(協力依頼事項)

※家庭で取り組んでほしい内容や地域の方にとってほしい内容

<ul style="list-style-type: none"> 地域の大人と関わりを持っていたり、放課後友だち同士で遊んでいたりする児童が比較的多い傾向にあります。一方で、地域の活動などに参加している割合が低い傾向にあるので、関わりを持っている大人や、友だち同士で地域の活動に参加できるように促すことで、地域との関わりを育んでいけたら良いのではないかと思います。 読書をするのが好きな児童もいるのですが、全く読書をしない児童の割合が比較的高いです。そのため、児童が読書に興味を持てるよう子どもたちの日常の興味関心から、それに関連する本を薦めたり、短い時間でよいので、毎日、家庭と一緒に読書をしたりするなど、読書をする事の面白さを経験させるようにしましょう。
